

放っておくと危ない! 気になる症状

咳が止まらなない!

咳は様々な原因で生じます。最も多いのは細菌やウイルスの感染による肺炎、気管支炎ですが、胃液の逆流が原因となる咳や副鼻腔炎(蓄膿症)が原因となる咳もあります。もちろん最も放っておくと危ないのは肺癌ですが、咳が始めている頃にはすでに進行している状態が多いので、放っておくというレベルの話ではありません。

全ての咳についてこの紙面で説明するのは無理なので、今回は気管が過剰に敏感になっているために生じる咳についてお話ししたいと思います。症状はとにかく咳が止まらないということです。痰はあまり

出ることは無く、出ても少量で乾いた感じのむせるような咳が発作的に起り、しばらく続いてようやく収まるという症状が数週間あるいは二か月以上続きます。朝起きた時やエアコンなどによる温度差、煙草などの煙がきっかけになることが多いですが、ひどくなると普通に会話をしている時や笑った時にも咳き込むようになります。医学的には気道過敏性の亢進状態と表現されますが、分かりやすく言えば不必要に気管支の粘膜が様々な刺激に対して過剰に反応してしまっているということです。

なぜそういう状態になっ

てしまうかという点、通常風邪をひいた後でもこの現象は起こりえます。喉が痛くて熱が出て風邪をひいたなどという後に、喉の痛みも熱も収まったのに咳だけが残っている、ということも多くの方が経験されていることだと思えます。これは風邪のウイルスに感染することにより一時的に気管支の粘膜が傷ついているためで、ある意味放っておいても自然治癒が期待できます。

放っておくと危ないのは咳喘息という病気です。アレルギーが関与してこの気道過敏性の亢進が起こっている状態です。多くの方は喘息と言え、ゼーゼー、ヒューヒューといった息苦しい状態をイメージすると思います。この咳喘息はそういう呼吸困難までは生じ

ていませんが、適切な治療を行わなければ何割かの方は典型的な喘息に移行すると考えられています。治療は通常の喘息治療と同じく吸入のステロイド薬や気管支拡張薬、抗アレルギー薬を用います。元々花粉症やアレルギー性鼻炎を持っている方が、引越しや大掃除をしたりペットを飼い始めた後に、特に風邪をひいた感じはなかったのに咳が始めてそれが続いているといった場合、この咳喘息である可能性は高まります。とにかく咳は我慢せず早目に医療機関を受診するようにしましょう。

佐伯地区医師会
玉川内科アレルギー科
クリニック

玉川孝太郎先生